尾張廼家苞

四之下

愛知県文化会館

505251

A911
4
2-4-2

尾張廻家巻四之下

新古今集

恋歌

題しらず　　後徳大寺左大臣

しき人の月かなしけれはわすられぬ人にをしなへてのいのゝ八月のゝ八月のゝそ　きり渡りてしのいろしくくるふ色

ふ　月くさ　きの八月のゝ八月のゝ八月のゝ

月をこの空かな散見しと　二番　六月のはらへ　左　ほとゝぎす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千五百番歌合

撰改

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

通具卿

[illegible]

有家卿

[illegible]

題しらず　慎改

思いてしる　月毒ねを　なてと　ちり　中や　ゆ　ゆ
初　ろ　ま　ス　て　る　月　ま　し　て　の　き　ま　ま　た　ま
月　ん　て　ま　て　こ　い　人　の　け　ま　ろ　し　ま　ま　て　月
ね　ま　必　ま　べ　き　ま　ま　と　ま　ま　し　の　ま　い　し　が　ま　ま　ま　ま　ま　て　や
ま　ま　い　ま　ま　て　ま　ま　ま　ま　ま

[illegible]

八月十夜和歌所にて月前恋

摂政

[illegible]

有家朝臣

[illegible]

定家朝臣

[illegible]

[illegible]

千五百番歌合に　後鳥羽院

[illegible]

千五百番歌合に　藤原定家朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題一寺　　通光卿

[illegible]

[illegible]

藤原保季朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家隆朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月見しへさきふるとをりのそ[illegible]の雪ゝしいへるゝ[illegible]月
とも見そ[illegible]陸つる[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
といへるゝ今ちかき[illegible]ゝ[illegible]
あ[illegible]の雪ゝ月見をへたゝ[illegible]
の[illegible]
[illegible]
多[illegible]雪のゝ[illegible]
月見て[illegible]

千五百番歌合　[illegible]

[illegible]

[illegible]
きの[illegible]雪ゝ[illegible]風の吹[illegible]
て[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

題しらず　殷富門院大輔

[illegible]

西行

[illegible]

建仁元年三月歌合に遇不遇恋

出御門内大臣

逢不逢恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

通具卿

[illegible]

家道

[illegible]

上方限りなれば今待つ[illegible]

[illegible]

宣秋門院丹後

[illegible]

二三の百枚風のふくとも葉ハ散ぬ[illegible]

[illegible]

家の四首歌合　撰改

[illegible]

[illegible]

題　寺　　西行

[illegible]

武内親王

[illegible]

[illegible]

家の奇会　摂政

いつもきくゆやの中のかんこゑなれのわりなきの声
ゑめなれのわれの声をこそいつもきくしきものをふををうめたる奇之　われの声をつねきくなれなるなれとて人耳もかねうしろみこんをあつてわくしてすれ必ずれハ
いくすれーそこもとろるかのそくく

慈覚大僧正

心わるしふすれ必人ハ人ハ本人ハ月の庭のわれ

一首のこゝろハ　すの者ハ　庭のわれハ　いつまでも　のまつ　ゆ
なるこゝろ　もわれ　と情のあるゆ　なハ　ふすれ　ハ　ものそ　なれ　ハ

和歌所奇会逢不遇恋　寂蓮

里あれぬむ　ふすき床のあるまて　月ハ　ハの　秋風て　峡
ゑ　枕のすきまの風も寒　うき　月ハ　ハの　月ハ
なるに　本所の　逢　夜　ハの　枕の　すきまの
風ハ　ふ　なる　ハ　ハ　ハ

[illegible]

[illegible]

水上瀬恋十首歌合 太上天皇御製

[illegible]

有家朝臣

あはれとて[illegible]

下句秋の秋はぎ[illegible]

あはれとて[illegible]

[illegible]

雅經

[illegible]

上句本歌よりいはれもあしかりなしいかはれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秀能

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

定家朝臣

清くしねとつるふくの秋のいろ冬をとりしは杜のもみぢ

本所六帖に入れたれば秋ぶかきなり風もそよそよとこそ

思の杜あるべし物思ふ人の縁所にも思ひ入れたる

しきなり。物思ふ人の縁所にもつるふくの人のわきまへ

つるふくをとりてもてはやすべし。その人の心のうちをもてはやすべし。

摂政家歌合

寂蓮

こぬ人を秋のつゆ[illegible]

初夕のとり六百番歌合にかくれたるものなれば

もとより歌集に改めて入れるなれば秋の夕

くれなり。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たるゝ人も三の句野のうれたる意くゝうるむる之とを
かはくゝるべし。三の句にくゝむる意あり。たゞ我はかの人の
たとへるべくゝうむる意人をも身をも物の名をいへる。
十の句は俗音にこゝりくきこゆる意あり

前宰相十一。我せあふひの恋をれば君の思ひさへ
ありしうゝ結ぶ。見そたる草のくゝ結ぶ。
ぼきてゝたるまもあるべし

波恋恋　太上天皇御製

油の落もあるべしもゝ消かへるゝまぐかる数せまれ。
四の句人のかのわれるものあり。されそはる
二三の句あるべしもゝ消かへるゝ。あるべしいろとへ。
油のゝよ

[illegible]

定家朝臣

いもとゝもいまはしなるゝ家のゝ下のゝ
[illegible]
家のゝ[illegible]人のかのゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

家隆朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠尺はもとむかしのこと　[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首歌の中に　武子内親王

けちかとと待し月見てうつりゆくはなのもとまをて

千歌をこそ[illegible]

もふにきかれしとしつりくしいてて[illegible]

[illegible]

[illegible]

いきとしもおもすて人をつゆしけなれをとくとくしく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるかすみ　あまの浦千島波の花ちりかくれ　きくの
岡の春ぶしわれも春のやつれしまはしあ
のしはしし　えこの方の波の花と波のうちの
なかへ入れしなもあれるうちの波の花ちりて那の人を
三月以下ふかやの揚泊めきて恋の哥ときこえん
寸　揚泊の歌　ふかやの揚泊めきて八月朔日　三月の月以下　ふかやの揚泊
とは　首座の哥ときこえなし　二下りけんきゝふかやの歌

定家朋臣

尋ねるつきの恋のたくのあはれ千めのあはれ
上月八月の山恋　てるかるかるのこと　此哥なかなかきこえ付
まはれん　たくの海　方柴三下飲海　あるは四巻
同人の哥　飲宇飲海　あるは同　して　お屋敷　意字那の
はあるとの　の脱　なるべ　侯　とは　宇　の　ちる　於　音　侯
てくくあ　年　あ　ち　て　く　ハ　ま　の　ち　る　し
ハ　ち　ん　侯　ア　ま　そ　年　年　の　ち　し　あ　ち　て　ハ
う　し　ま　き　ハ　あ　ま　ん　ち　ハ　人　の　の　ま　き　ま　ま　ち　ま　見　ち　ん　ま　ま　ち
ま　ま

水世之瀬　幸貴歌合　雅經

みし人の面影　あよ清見浮神之関　波のうきし路
とあよ関の緑の河四月　神の渡を渡ってい信
ふ浮の緑ホ実りとい　へ　年　光　神の渡

[illegible]

後成女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋風の考へしかたを思ひたち六帖を吹かれしなれ
なる秋風をもとき初めしかしらの考へ下りのうち
江の海の落ちを吹風を数へ風のをとをすしをを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

題一寺　左近中將公衡

[illegible]

通具卿

[illegible]

本歌[illegible]

[illegible]

叡運

[illegible]

[illegible]

[illegible]

忘れがたきことハ郎女の笑をとゝめるゝ。笑を殺今、笑をしてあ
ひ一けのうるをかしさ。はゝ笑ハ笑ひ。粧ひ。あるべきたゝめ。井をうるをはち
なきこゝ。そのまゝ。ひとあるゝし。何のうるをかゝ。夜のかゝ。
まもなくこゝ。ゆゆあるをうる。笑れ。ほのしとゝ。

千五百番哥合　後成卿

紅ゆうたくねのこゝ見ゝ。笑のなき。ゆゆしゆゆ。俊
物ゆうを寺。結句。ゆうたくこゝ。ゆうたくこゝ。結句。ゆうたくこゝ。俊
事ゆうゆうしこゝ上へゆうをうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう。
ゆうゆうゆうゆう。結句。ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう。
二三句。ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう。二三の句。ゆうゆうゆうゆう。
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう。

ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう。

題一寺　定家朝臣

ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう。
物ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう。
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう。

[illegible]

和歌所歌会に逢不遇恋

後成女

[illegible]

恋の部に

武子内親王

はつかなるこぬ夜をなげきしたれかふしのつかねを
上句八人の心は言の葉の下句はこゝろをもはら手
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

崇德院小貝殼より叶

俊成卿

[illegible]

三三の句のはかり、ひろうきこゆるへきこと、[illegible]

[illegible]

[illegible]

愛　知　県
1105052514
911
イ
2-4-2